荘銀グループ
展望台

ほんとは、こんな生活がしたかった
私たちの出羽庄内

荘内銀行
ふるさと振興室
田村　優

ほんの小さな歩みでも、ネットワークされた多くの人々の歩みを促し、地域全体が大きく動き出すと確信している。「庄内はひとつ」…。庄内価値開発研究会の提言は、時を経てますます鮮やかに見えてきた。

庄内価値開発研究会の活動

庄内価値開発研究会の活動も今年で五年目を迎えた。研究会メンバーには、その間継続してさまざまな活動を行っていただいている。一九九七年十月にまとめ上げた出羽庄内価値開発「プロジェクト5」の提言の一部は、県内民間初の総合研究所「荘銀総合研究所」や「東北公益文科大学」の開学で現実のものとなった。「プロジェクト5」の提言は時を経て、ますます鮮やかに実現に近づいてきた。

庄内価値開発研究会の本旨は、地域活性化に向けて地域主体（企業、行政、住民）の自発的かつ主体的な活動意欲に「場」と「ネットワーク」を提供し、地域活力の向上につながる多様なプロジェクトを生み出し、ときに、自らが実践していくことである。いま、一つの試みとして「庄内価値開発ポータルサイト」を立ち上げようとしている。誰もが参加できるインターネットというネットワークを通じて地域主体間の連携促進と起業マインドの醸成を図り、かつ事業化まで視野に入れている。庄内価値開発研究会は、議論・提言の場から実践の場に移ろうとしている。

日本初の公益サイト「Shonai Value Station」

二十世紀の社会構造に拘泥し、その閉塞感を憂えても現状は前に進まない。二十一世紀の社会は、地域や住民の自己責任の社会である反面、地方にさまざまなチャンスが巡ってくる。日本全国何処を切っても金太郎飴（あめ）のような地域づくりではなく、その地域が持つ自然・文化・伝統・住民までも包含した地域の価値資源を表舞台に出さなければならない。

庄内価値開発研究会では、庄内を公益学発祥の地として情報発信しようとしている。二十一世紀を「公益の時代」と位置づけ、「公益」の切り口で庄内を情報発信し、活性化しようとする試みである。誰にでもネットワークの場を提供する「公益サイト」を通して、まさに手弁当で五年間も研究会に参加し、二〇〇X年の庄内を創ろうとする「公益行動」によってなされる試みである。その仕組みと狙いをご報告する。

URL
http://www.dewashonai.com
８月中旬オープン予定

◆公益を学ぶ

公益って何だろう？市場原理に従った評価、価値観とは違った、別の見方、考え方が私たちの生活、社会に必要であろう。

公益学に詳しい人、ボランティア・NPOに詳しい人、公益活動を実践している人、共に学ぶ場にしたい。答えを探すのではなく、私たちのために確信できることをお互いに共有できれば良い。ここ庄内は公益を議論するに打って付けの場所なのである。

◆公益を創る

公益活動を行政にすべてお任せの時代は終わった。市場原理の下で営利の拡大を目的とする企業でさえ「コーポレート・シティズンシップ」といわれるように、自らのマーケット発展のために、その地域の一員として認知され、コミュニティーの形成、発展に寄与する必要がでてきた。二十一世紀は市民が社会の中心的役割を担う時代になるのではないか。

環境、福祉、教育、街づくり等私たちの身の回りの課題を私たち自身で考え、解決していくためにアイディアを出し合いプロジェクトを作っていきたい。

東北公益文科大学（酒田市）

鶴岡タウンキャンパス（鶴岡市）

◆公益を行動する

地域の中でさまざまな問題意識を持ち、ボランティアやNPOという形で活動している人々や組織がたくさんある。いろんな事例を紹介しながら、多くの人がそんな活動に参加できるようにしたい。「わたしができます」「わたしがお手伝いします」まず初めに自分のできることを考えてみたい。そして行動する。

◆公益を事業化する

環境循環型ビジネスや環境に優しい商品、技術などを紹介する。ネットワークする中でもっと面白いアイディアが生まれたり、商品化されることを期待している。プロジェクトが事業化されていくかもしれない。コミュニティービジネスを応援する仕組みも検討したい。

終わりに

公益サイト自体は、ネットワークと場の提供にすぎない。たとえて言えば、庄内平野の一角に土地を確保し、わずかな農具を準備しただけである。しかし、この地に花の種でも野菜の種でも持ってくれれば、種が花や実を結ぶチャンスがある。

地域の人々が参加・行動しなければ何も変わらない。庄内にある価値資源を活かし、人々が活き活きと輝く、活力のある地域を実現したい。

大宝館（鶴岡市）

土門拳記念館（酒田市）